令和4年度

事業報告書



社会福祉法人尾鷲市社会福祉協議会

理念

尾鷲市のだれもが 安心して生活できるまちづくりをすすめていく

職員心得

- 一、笑顔であいさつ
- 一、責任ある行動
- 一、思いやりを持って接する

目次

Ι	地域福祉課	
	総務・福祉係	. 1
Π	生活支援課 生活支援係	21
Ш	高齢者支援課	
	地域包括支援センター	34
IV	障がい支援課	
	紀北地域障がい者総合相談支援センター結	40
V	居宅介護支援課	
	居宅介護支援事業所	49
VI	訪問介護事業課	
	訪問介護事業所	52
VII	訪問入浴事業課	
	訪問入浴事業所	55
VIII	尾鷲通所介護事業課	
	尾鷲社協デイサービスセンターいきいき	56
IX	輪内高齢者サービスセンター	
	輪内デイサービスセンター	58

I 地域福祉課

総務・福祉係

1. 会務の運営

適正な法人運営と円滑な事業推進を図るため、次のとおり理事会並びに評議員会を開催した。

(1) 理事会

第1回 令和4年6月9日 出席者 14名

- 議題 ・令和3年度事業報告(案)について
 - ・令和3年度決算(案)について
 - ・令和4年度【第1回補正予算】資金収支予算(案)について
 - ・評議員選任候補者の推薦(案)について
 - ・評議員選任・解任委員会の招集(案)について
 - ・令和4年度定時評議員会の招集(案)について

報告 ・社会福祉充実残額について

・職員給与規程等の変更について

第2回 令和5年3月2日 出席者13名

議題・令和4年度【第2回補正予算】資金収支予算について

- ・令和5年度事業計画について
- ・令和5年度【当初予算】資金収支予算について
- ・苦情解決事業 第三者委員の委嘱について
- ・評議員選任候補者の推薦について
- ・評議員選任・解任委員会の招集について
- ・令和4年度第2回評議員会の招集について

報告 ・規程等の変更について

・次回の理事会について

(2) 評議員会

第1回 令和4年6月24日 出席者 30名

議題・令和3年度事業報告(案)について

- ・令和3年度決算(案)について
- ・令和4年度【第1回補正予算】資金収支予算(案)について

報告・令和3年度社会福祉充実残額について

第2回 令和5年3月16日 出席者27名

議題 ・令和4年度【第2回補正予算】資金収支予算について

- ・令和5年度事業計画について
- ・令和5年度【当初予算】資金収支予算について

報告 ・次回の評議員会について

(3) 監事監査

- ① 令和 4 年 5 月 17 日 · 18 日 監事 2 名
 - ・令和3年度の事業及び決算についての監査
- ② 令和 4 年 11 月 29 日 監事 2 名
 - · 令和 4 年 4 月~令和 4 年 9 月 定期会計監査

(4) その他の監査

- ① 令和 5 年 2 月 16 日 財政援助団体等監査(尾鷲市監査委員事務局)
- ② 令和 5 年 2 月 27 日 社会福祉法人指導監査(尾鷲市福祉保健課)

2. 事務局体制の強化

(1) 職員体制の強化

令和5年度職員体制の確保に向け、採用試験を実施

·採用者数 嘱託職員 3名

(令和4年度退職者 正規職員3名、嘱託職員4名)

(2) 福祉関係資格取得奨励及び各種研修会への参加

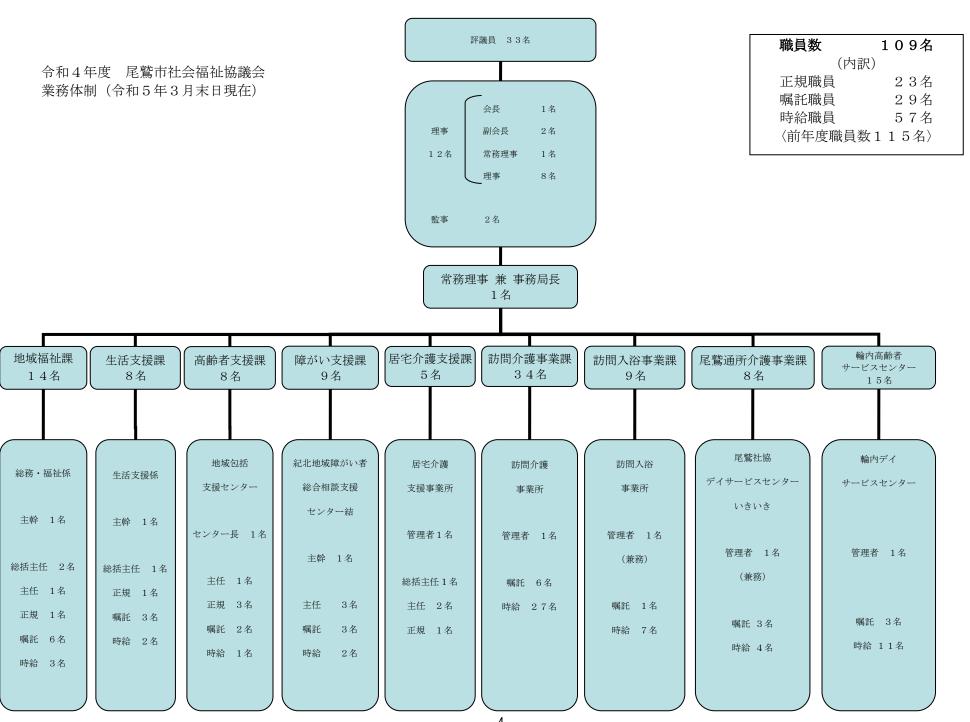
資格取得の状況精神保健福祉士2名保育士1名公認心理師1名介護職員初任者研修課程修了1名

(3) 活動基盤の改善・充実

会計・税務顧問契約の締結

関係法令等の改正により、高まる会計・税務の専門性に対応するため、

引き続き税理士法人と顧問契約を締結し、適正な運営に努めた。



3. 地域福祉財源の確保

- (1) 補助事業・委託事業などの公的財源の確保
- (2) 自主財源の確保
 - ① 善意銀行の運営

市民の善意により、現金物品が寄贈された。

【現金】一般預託11 件600, 510 円指定預託0 件0 円合計11 件600, 510 円

※前年度合計 11 件 339,656 円

【物品】車イス3台車両1台クイックテント1張パソコン2台

②社協賛助会費制度の運営

会員制度による住民参加、地域福祉活動の充実を目標に、民生委員児童 委員、地区福祉委員会などの協力、連携により賛助会費の募集を行い、地 域福祉活動の財源確保に努めた。

(単位:円/件)

	令和 4 年度 金額 件数		令和3年度	Ę
			金額	件数
賛助会員	880, 000	831	1, 078, 000	1, 012
特別会員	270, 000	34	305, 000	39
計	1, 150, 000	865	1, 383, 000	1, 051

4. 福祉団体活動支援

(1) 尾鷲市老人クラブ連合会の活動支援

老人の健康、生きがいなどの福祉の向上を図るとともに、社会奉仕活動への積極的な参加促進を支援した。

- ① 老人クラブ連合会活動の支援 18 クラブ·会員数 778 名
- ② 尾鷲市福祉保健センターを活用した各種講座の開催 6 講座 777 名 (前年度 12 講座 170 名)

(2) 尾鷲市遺族会の活動支援

遺族会の活動を支援した。

① 尾鷲市戦没者追悼式(尾鷲市との共催)

開催日:令和4年6月5日 場 所:尾鷲市民文化会館

参列者:100名

5. 苦情解決事業

苦情に対して社会性・客観性を確保するため第三者委員会を設置し、利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を行うため、苦情に対する職員の意識を高め、サービスの質の向上に取り組んだ。

(1) 苦情解決体制

苦情解決責任者 事務局長 苦情受付担当者 総務·福祉係長 第三者委員 3名委嘱

(2) 苦情内容・苦情件数

(単位:件)

苦情の内容	令和 4 年度	令和3年度
ケアの内容に関わる事項	0	0
個人の嗜好・選択に関わる事項	0	0
財産管理·遺産·遺言等	0	0
制度・施策に関わる事項	0	0
その他 (職員の言動·交通マナー・施設管理)	0	0
本会以外への苦情等	0	0
合計	0	0

6. マイクロバス貸出事業

マイクロバスを貸出して、各種団体の活動支援を行った。

利用団体:11団体(前年度 9団体)

利用回数:延べ19回(前年度 延べ14回)



7. ご当地キャラクター

尾鷲社協ご当地キャラクター、尾鷲よいとこヤーヤにゃんを用いて尾鷲の観光PRをするとともに、福祉へのイメージアップを図った。

(1) 出演

職員がスタッフとして市内外のイベント出演。

出演回数:0回(前年度0回)

(2) 貸出

着ぐるみの貸出しを行った。貸出回数:12回(前年度2回)

(3) デザイン使用

出版物等にイラストの使用を許可した。件数:3件(前年度8件)

8. 地域福祉活動の推進

- (1) 地域福祉活動支援事業
 - ① 地区福祉委員会の活動基盤強化
 - ア. 活動相談
 - イ. 研修交流会の開催

内 容:ふれあいサロンリーダー養成講座

開催日:令和5年3月7日(火)

会 場:尾鷲市福祉保健センター4F 多目的ホール

参加者:32名





- ウ. 地域課題解決に向けた支援
- エ. 活動の周知啓発
- 才. 助成事業(基本助成、活動助成、新規結成助成)
 - ◇ 基本助成(地区福祉委員会の運営費および活動費として)

助成数・助成額:13団体 260,000円

◇ 活動助成(各地区独自の活動費として)

助成数:助成額:13 団体 398,500 円

② ふれあいサロン活動の推進

ア. おしゃべりほのぼのサロン事業

高齢者の生きがいづくり・見守り支援を目的とした高齢者サロン を職員とボランティアの協力で実施した。

のべ参加者数

(単位:人)

	尾鷲	九鬼	早田	須賀利	合計
参加人数	63	54	43	20	180
前年度	32	30	25	22	109

イ. 百寿雀サロン事業(共同募金配分事業)

百寿雀を活用したふれあいサロンづくりを模索するため、体験会 を実施した。

参加人数:福祉保健センター のべ 214 人 (22 回)

矢浜コミュニティセンター のべ 108 人 (14回)

三木里コミュニティセンター のべ 104 人(10 回)





ウ. 助成事業(ふれあいサロン助成)

ふれあいサロン活動に取り組む団体に対して助成金による活動支援を行った(共同募金配分事業)。

助成額:33,025円(3団体)

活動実績

実施団体	回数	のべ参加人数
三木浦地区福祉委員会	2	15
曽根地区福祉委員会	4	42
宮ノ上・座ノ下地区福祉委員会	3	60
合計	7	117

※ 新型コロナウイルスの影響で活動の中止が多かった





- ③ ふれあい・見守り訪問活動の推進
 - ア. 助成事業(あったかふれあい訪問活動助成、友愛活動助成)
 - ◇ あったかふれあい訪問活動助成

地区福祉委員会が行うふれあい訪問活動に対し、助成金による活動支援を行い、住民主体による福祉ニーズの発見を促進した。

助成額:853,000円(12地区)

活動実績

地区福祉委員会	回数	のべ訪問件数
三木浦地区福祉委員会	3	411
倉ノ谷地区福祉委員会	2	179
三木里地区福祉委員会	3	286
古江地区福祉委員会	4	468
坂場地区福祉委員会	4	513
曽根地区福祉委員会	2	92
宮ノ上・座ノ下地区福祉委員会	2	150
泉地区福祉委員会	3	134
新田地区福祉委員会	2	244
なみき地区福祉委員会	3	646
天満地区福祉委員会	3	188
九鬼地区福祉委員会	1	101
計	32	3, 412





◇ 友愛活動助成

尾鷲市老人クラブ連合会が行う友愛活動に対し、助成金による活動支援を行った(共同募金配分事業)。

助成額: 126,000円

活動実績

, 11 - 23 2 5 11 25		
取り組みクラブ数	のべ訪問件数	
18 クラブ	502 名	

④ 子育て支援事業の推進

ア. 子育て応援イベントの開催(共同募金配分事業)

子育てめっけもん広場のオープニングイベントとして『あそびの広場』を開催し、巨大迷路やパネルシアター、紙芝居、制作(6月は紙皿のコマ、12月は紙皿リース)などを行った。

会 場 尾鷲市福祉保健センター1 階ロビー

開催日 第1回 令和4年6月18日(土) 参加者 88名

第2回 令和4年12月3日(土) 参加者 73名

開催時間 9:00~11:00





イ. 子育てグッズのリサイクル(共同募金配分事業)

◆ 子育て用品「無料レンタル」

不要となったチャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッド の寄付を受け、必要とする方に無料で貸し出した。

利用件数:30件(前年度 31件)

◆ 子育て用品の譲り合い仲介

チャイルドシート、ベビーカー、ベビーベッド以外の不要子育て用品について、譲り合いの仲介を行った。

仲介件数:3件(前年度 4件)

◇ 子育てめっけもん広場

不要となった子育て用品の譲り合いを支援するため、交換会 「子育てめっけもん広場」を開催した。

第1回 令和4年6月18日(土)~27日(月) 提供者 25名

来場者 72+88 (イベント) =160 名

第2回 令和4年12月3日(土)~12日(月)

提供者 26名

来場者 98+73 (イベント) =171 名





⑤ 療育支援事業の推進

- ア. 療育教室(すまいる教室)の開催
 - ・ 1 時間 30 分~45 分の教室(サーキット、リトミック、課題、 視聴覚教材等)を実施し、障がい児や発達の気になる子どもの グループ療育支援を行った。
 - クリスマス会の実施(フラワーアレンジメント、ヤーヤにゃん サンタからのプレゼント、パネルシアター等)
 - ・ 保育士を中心に、言語療法士など専門職による専門療育、風の 広場によるダンス療育の機会を提供した。
 - · 新型コロナウイルスの感染対策として大人はマスク等を使用し、換気や消毒、検温を行った。
 - ・ 未就学児は親子参加を基本とし、保護者の孤立を防ぐとともに 相談や交流の機会とした。
 - ・ 未就学児のカンファレンス年2回

参加者:担当保育士、保健師、言語聴覚士、療育スタッフ等

参加状況

(単位:人)

区分	実人数	のべ人数
尾鷲市	28	408
紀北町	15	174
計	43	582

(2) ボランティア・市民活動センター事業

- ①ボランティア団体の活動支援
 - ア. 活動相談:4件
 - イ. 研修交流会の開催

新型コロナウイルスの影響で中止した。

- ウ. 地域課題解決に向けた支援
 - ◆ 住民参加型生活応援事業「助っと」の立ち上げ

住民有志9名とともに助け合いのしくみを立ち上げ、試験的 に買い物支援、ごみ出し支援を実施した(共同募金配分事 業)。

3月31日現在

会員登録(単位:人)	支援会員	14
玄貝豆啄(半位・八 <i>)</i> 	利用会員	24
実施状況(単位:回)	買い物代行支援	20
天心仏の(早位・凹)	ごみ出し支援	546





◆ 輪内買い物支援「いこらい」実証実験

住民ボランティアと協働した買い物支援が、曽根町、梶賀町 にて本格実施が始まり、新たに古江町で実証実験を行った(共 同募金配分事業)。

3月31日現在(単位:人)

		- / 3 /	
	曽根町		9
11 田 及臼	梶賀町		12
利用登録	古江町		20
	==	計	
	曽根町・梶貧 間)	賀町(年	96
 実施状況		1月25日	10
美胞认沉 	古江町	2月15日	12
		3月22日	13
	言	<u> </u>	131





エ. 助成事業(ボランティア活動助成)

登録ボランティア団体を対象に、ボランティア・市民活動の促進 及び充実を図ることを目的として助成金による支援を行った。

助成額:147,110円(8団体、うち1団体途中解散)

活動実績

助成団体	内容
尾鷲市食生活改善推進協議会	シニアカフェ、食の啓発
オンツツジを育てる会	環境保全活動
ウェークエンドの会	障がい者の社会参加の場づくり
尾鷲藪漕隊	自然体験サポート、古道整備
スポレクおわせ	社会参加促進・イベント講師

天狗倉山まるごとプロジェクト	世代間交流、環境保全
いこいの場みさき	ふれあいサロン(R4/8/29 解
	散)
声のボランティアやまびこの会	視覚障害者の音訳 CD 作成

②ボランティア活動保険の加入補助

ア. 助成事業(ボランティア活動保険加入助成)

登録ボランティアを対象にボランティア活動保険の加入促進を目的として助成金による支援を行った。

助成額: 32, 200円(322名)

加入数:487名

③ボランティア育成

ア. 災害ボランティア講座(共同募金配分事業)

災害ボランティアコーディネーターの資質向上を目的に、ボランティア講座を開催した。

開催日:令和4年11月27日(日)

会 場:尾鷲市福祉保健センター4階 多目的ホール

内 容:床下浸水した際の家屋復旧支援について

講師:災害ボランティア愛・知・人代表 赤池博美氏

参加者:22名





イ. 生活支援ボランティア育成講座(共同募金配分事業)

移動支援の担い手育成を目的に、地域支え合いドライバー養成講座を開催した。

開催日: 令和5年2月25日(土)・26日(日)・3月1日(水)

会 場:尾鷲市福祉保健センター

内 容:福祉有償運送運転者・セダン等運転者講習(講義+実技)

講 師:全国移動サービスネットワーク認定講師

参加者:19名





④災害ボランティアセンターの基盤強化

ア. 災害ボランティアセンター設置運営訓練

南海トラフ大地震を想定した大規模被災時の災害ボランティアセンター立ち上げまでの手順や、支援団体との協働ポイントについて確認する訓練を行った。

第1回 開催日:令和4年8月2日(火)

会 場: ZOOM ミーティング (オンライン)

内 容:東日本大震災における災害ボランティアセンター

の開設・運営

講師:宮古市社会福祉協議会総務課長有原領一氏

参加者:58名

第2回 開催日:令和4年8月16日(火)

会 場:尾鷲市福祉保健センター

内 容:被害想定から見る南海トラフ巨大地震の被害の様

相について

講 師:NPO 法人みえ防災市民会議 西川泰弘 氏

参加者:18名

第3回 開催日:令和4年10月23日(日)

会 場:三重県尾鷲庁舎

内 容:協働プラットホームにおける各団体との協働訓練

参加者:18名





イ. 災害ボランティアセンター関係者会議

東紀州ブロック社協広域連携協議会で、災害時の広域連携を想定した初動期における社協間の連携シミュレーションの確認・見直しを行った。

第1回 開催日:令和4年8月17日(水)

会 場:Z00Mミーティング(オンライン)

第2回 開催日:令和4年11月11日(金)

会 場: ZOOM ミーティング (オンライン)

第3回 開催日:令和5年1月11日(水)

会 場:熊野市保健福祉センター

⑤福祉教育の推進

ア. 子ども福祉スクール事業(共同募金配分事業)

◆ 手話体験教室(小学生対象)

開催日:令和4年8月6日(土)会 場:尾鷲市福祉保健センター

参加者:9名(児童6名、保護者3名)





イ. 福祉教育プログラムの提供

福祉協力校に対して、福祉教育プログラムを作成し、様々な授業で活用した。





ウ. 福祉作品コンクールの募集

福祉教育の一環として、小・中学校生を対象に、福祉をテーマに した『標語』とその標語に込めた『想い』を募集し、入賞作品を表 彰した(共同募金配分事業)。

応募総数 463 点

表彰者 小学校低学年の部 3名 小学校中学年の部 3名 小学校高学年の部 3名 中学校の部 3名

⑥助成金による福祉教育の推進

ア. 助成事業(福祉教育助成金)

福祉協力校(小学校5校、中学校2校、高校1校、特別支援学校1校)を指定し、各学校の福祉教育の充実を図るために助成を行った(共同募金配分事業)。

助成金額 6 校 249, 496 円

活動実績

福祉協力校	内容
尾鷲小学校	手話体験、環境美化、募金・広報活動
宮之上小学校	福祉の授業、ボランティア・募金活動
矢浜小学校	施設慰問、環境学習
向井小学校	施設慰問、奉仕活動、地域交流活動
賀田小学校	環境美化、地域交流
尾鷲中学校	
輪内中学校	地域交流、環境整備、人権教育
尾鷲高校	
くろしお学園おわせ分校	環境美化・清掃、地域交流

(3) 生活支援体制整備事業(尾鷲市からの受託事業)

① 生活支援コーディネーターの配置(2名)

ア. 活動内容

(単位:回)

活動内容	件数
アセスメント(情報収集・課題分析)	87
相談対応	36
連絡・調整	50
支援活動のコーディネート	38
ケア会議	3
地域での協議	23
関係機関との協議	6
周知・啓発	6
人材育成	8
研修·視察	8
その他	16
のべ活動回数	281

② 地域における協議体制の整備

市内を第一層(尾鷲市全体)、第二層(日常生活圏域)、第三層(各町)に分け、それぞれの階層で地域の生活支援を協議する場を整備した。

ア. 地域支え合い応援隊会議の運営(第一層協議体)

尾鷲市全体のことを話し合う協議会として、地域支え合い応援会議を組織し、生活支援体制整備の現状確認や今後の方針について協議した。

	開催日		協議内容
第一回	令和 4 年 8 月 23 日(火)	√ √	生活支援のための社会資源 生活支援コーディネーターの活動報 告
第二回	令和 4 年 10 月 14 日 (金)	✓	通いの場の取り組み状況について
第三回	令和5年 1月31日(火)	✓	通いの場の現状をどう評価するか
第四回	令和5年 3月28日(火)	√ ✓	通いの場づくりの方向性について 通いの場づくりを推進するためにで きること





イ. わごころ会議の運営(第二層協議体)

日常生活圏域(旧町内・周辺地区)ことを話し合う協議会として、わごころ会議を組織し、具体的な生活支援活動について協議した。

内 容:住民参加型生活応援事業「助っと」について

開催日: 令和4年5月31日(火)尾鷲地区 令和4年6月10日(火)周辺地区





ウ. 地域福祉懇談会の運営(第三層協議体)

より身近な地域で話し合う協議会として、地区懇談会を開催し、 具体的な生活支援活動について協議した。

- ③ 地域の支え合い活動に関する周知・啓発
 - ア. 支え合い講演会の開催

新型コロナの影響で中止した。

イ. 地域活動の紹介通信「わごころ通信」の発行(10月・3月)

全戸を対象に地域における支え合い活動の見える化を目的として、地域活動を紹介する「わごころ通信」を発行した。

第7号:住民参加型生活応援事業「助っと」支援会員募集、古江

地区福祉委員会活動紹介

第8号:百寿雀の定期開催地区の紹介、わがらの町の"暮らし"

ささえ合い塾の開催報告

④ 生活支援サポーターの養成

生活支援サポーター養成講座「わがらの町の暮らしささえ合い塾」 を開催し、住民の支え合い意識の向上を図るとともに、地域における 支え合い活動のきっかけづくりを行い、延べ90名の参加をいただい た。

第1回 開催日:令和4年9月27日(火)

内 容:健康寿命と社会参加~人も地域もイキイキ~

講師:全国コミュニティライフサポートセンター

理事長 池田昌弘 氏

参加者:28名

第2回 開催日:令和4年9月29日(木)

内 容:公的支援の隙間とささえ合い

講師:尾鷲市地域包括支援センター職員

参加者:22名

第3回 開催日:令和4年9月29日(木)

内 容:認知症の方とその家族を地域で支える活動

講師:尾鷲市地域包括支援センター職員

参加者:21名

第4回 開催日:令和4年10月5日(水)

内 容:地域でささえ合うしくみ~御浜町ささえあい

サービスの取り組みについて~

講 師: 御浜町社会福祉協議会 地域福祉係長

喜多さつき 氏

ささえあい会員 長阪文代 氏

参加者:19名

(4)援護事業

① ひとり親世帯就学応援事業

ひとり親家庭の小学校卒業児童に対し、中学校への就学応援品として図書カードを贈呈した(共同募金配分事業)

対象児童 22 名(前年度 19 名)

② 災害義援金・海外救援金の募集

7 T 12 15 T 17 17 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15	\ I I I I I I I I I I I I I I I I I I I
義援金・救援金	寄付額
平成30年7月豪雨災害義援金(西日本豪雨)	1, 170
令和2年7月豪雨災害義援金(球磨川流域)	1, 536
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	1, 100
令和4年7月大雨災害義援金(宮城県)	100
令和4年8月3日からの大雨災害義援金(山形県	1, 501
他)	
令和 4 年台風第 15 号災害義援金(静岡県)	1, 300
ウクライナ人道危機救援金	107, 026
2023 年トルコ・シリア地震救援金	24, 250
合 計	137, 983

(単位:円)

※日本赤十字社を通じて寄付

③ 災害時援護事業

市内で発生した火災の被災世帯に対し、救急セットと毛布、見舞金を配布した。

被災件数:1件(2世帯)

配布物:救急セット2個 毛布3枚 見舞金

(5) 広報啓発事業

① 尾鷲市社会福祉大会(尾鷲市との共催)

多年にわたり社会福祉事業・社会福祉活動に功績のあった方々を顕彰するとともに、社会福祉のさらなる充実を目指すことを目的に、尾鷲市社会福祉大会を開催した。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、主催および被表彰者、並びに来賓のみの少人数で開催した。

開催日: 令和4年11月23日(水)

場所:尾鷲市中央公民館

内 容:顕彰(尾鷲市市長表彰9名、尾鷲市社会福祉協議会会長表彰

35 名)





- ② 広報紙「社協だより」の発行 年4回(5月・7月・10月・3月)広報紙「おわせ社協」を発行し た。
- ③ ホームページ、Twitter、Facebook での情報発信

ホームページ、Twitter、Facebook を活用し、情報発信を行った。

(6)募金活動支援

① 赤い羽根共同募金(三重県共同募金会)への協力 民生委員児童委員、自治会、婦人会など多くの関係者と共に、募金 活動に協力した。

一般募金(運動期間:令和4年10月1日~令和5年3月31日)

募金実績(単位:円)

	令和 4 年度	令和3年度	比較
目標額	2, 475, 200	2, 428, 100	47, 100
実績額	2, 071, 333	2, 250, 988	▲ 179, 655
達成率	83. 68%	92. 70%	▲ 9. 02%

募金種別による内訳

(単位:円)

	令和4年	 E度	令和3年	 E度	比較	
	金額	件数	金額	件数	金額	件数
戸別	1087687	2, 759	1, 297, 037	3, 301	▲ 209, 350	▲ 542
法人	621, 935	106	618, 960	104	2, 975	2
街頭	56, 675	4	47, 702	5	8, 973	▲ 1
学校	56, 656	8	47, 978	6	8, 678	2
職域	134, 926	24	142, 018	25	▲ 7, 092	▲ 1
イベント	20, 642	5	0	0	20, 642	5
個人	3, 500	2	2, 100	1	1, 400	1
その他	89, 312	39	95, 193	36	▲ 5, 881	3
計	2, 071, 333	2, 947	2, 250, 988	3, 478	▲ 179, 655	▲ 531

② 日赤募金(日本赤十字社三重県支部)への協力

日赤奉仕団(尾鷲市婦人の会連絡協議会)、自治会等の協力を得て、 募金運動に協力した。

社資増強運動期間:令和4年5月1日~5月31日

	令和 4 年度	令和3年度	比較
目標額	2, 595, 000 円	2, 570, 000 円	25, 000 円
実績額	1, 616, 563 円	1, 874, 339 円	▲257, 776 円
達成率	62. 20%	72. 90%	▲ 10. 70%

Ⅱ 生活支援課

生活支援係

1. 総合相談

(1)総合相談事業

① 総合相談事業

「だれもが安心して生活できるまちづくりをすすめていく」という当会 理念のもと、相談者の悩みに寄り添い、相談対応した。

困りごとの早期解決・早期脱却に向け、金銭貸付、家計改善支援、食料支援等あらゆる支援策を講じるとともに、必要に応じて他機関と連携し、課題を解決することができた。

(ア) 相談実績

相談件数:48件(相談者の属性や内容に重複あり)

(単位:件)

		(1 1 2 1 1 7
属性	令和4年度	令和3年度
困窮者	41	66
高齢者	4	0
障がい者	2	1
その他	1	11
計	48	78

(単位:件)

相談内容	令和4年度	令和3年度
自立生活に関すること	14	12
家計管理に関すること	11	8
貸付に関すること	30	41
借金・滞納に関すること	10	9
成年後見制度に関すること	0	2
日常生活自立支援事業の利用	5	0
消費生活に関すること	0	0
虐待・権利侵害に関すること	1	1
生活支援に関すること	1	5
地域・人間関係に関すること	5	7
仕事に関すること	11	9
引きこもりに関すること	3	0
その他	0	0
計	91	94

2. 生活再生事業

(1) 生活再生相談

① 生活困窮者自立相談支援事業(市受託事業)

相談者の悩みに寄り添い、どのような支援が必要か一緒に考え、生活困窮 状態から脱却するための計画を立て、必要に応じて病院や市役所に同行する など支援した。また高齢者福祉や障がい者福祉など専門分野の課題について は、他機関と連携し支援した。その結果、的確な方向性を示すことができ、 安定した生活に至ることができた。

(ア)相談対応

(単位:件)

	令和 4 年度	令和3年度
相談件数	48	72
支援計画策定	14	29
のべ対応	829	1389
(支援申込み前含む)		

(単位:件)

対応内容	令和 4 年度	令和3年度
電話相談	276	726
訪問·同行支援	111	250
面談	332	253
所内会議	49	50
支援調整会議(プラン策定・評価)	46	85
その他関係機関との会議	3	6
関係機関との照会・協議	4	3
その他	8	16
計	829	1389

(イ) 支援体制の構築

ア 周知啓発活動

三十三銀行

・ 相談窓口の案内チラシ配布および設置 福祉保健課、福祉保健センター、税務課、市民サービス課、水道部 各コミニュティセンター、尾鷲小学校、紀北信用金庫、百五銀行、

イ 関係機関との会議

- ・ 尾鷲公共職業安定所との連絡会議 新型コロナ感染対策のため書面により実施した。
- ウ 支援調整会議 (開催回数:12回)

② 生活困窮者家計改善支援事業(市受託事業)

家計管理に問題がある方を対象に、収支状況の見える化と計画的な家計プランの作成を相談者とともに行った。

判断能力が不十分なため、自分で家計管理や手続きなどを行うことが難しいものの、他人には通帳を預けたくない方には、継続的な支援により信頼と納得を得ることができ、日常生活自立支援事業の利用につなげることができた。

また、それ以外で判断力や管理能力に問題がある方も、当事業の継続的な支援により、家計状況を適正化することができた。

(ア) 相談対応

(単位:件)

	令和 4 年度	令和3年度
相談件数	51	50
支援計画策定	10	13

(イ) 対象者が抱える課題(支援決定者のみ)

(単位:件)

	令和4年度	令和3年度
税金の滞納	3	8
医療費の滞納	2	2
公共料金の滞納	2	6
債務(銀行や消費者金融など)	8	7
家計管理の問題	9	11
低所得	8	6
計	32	40

③ アウトリーチ等強化による自立相談支援事業(市受託事業)

生活課題を抱えるひきこもり状態にある方、長期無業者など、すぐに課題を解決できない状況の方に対し、自宅を訪問し、病院や官公庁への手続きに同行するなど、本人に寄り添った訪問支援を行った。

その結果、本人から信頼が得られ、電話相談や来所による面談が増えた。 複雑に絡み合った課題などはすぐ解決には至らないが、本人との信頼関係を 維持しつつ、一つずつ課題を解決していくことができた。

また、ひきこもりの方がいる世帯については、その家族の悩みに寄り添うため、家族懇談会を行った。その結果、家族と支援者との関係が少しずつ縮まり、信頼から協力関係につながり、ひきこもり当事者と直接会うことができた。第三者が関与することで少しずつ当事者を含めた家族により良い変化を与えることができた。

(ア) 相談対応

(単位:件)

	令和4年度	令和3年度
相談件数	29	16
のべ対応件数	1025	697

(単位:件)

対応内容	令和4年度	令和3年度
電話相談	331	342
訪問	128	127
面談	367	77
同行支援	65	40
関係機関との協議	134	111
計	1025	697

④ 生活困窮者就労準備支援事業(市受託事業)

生活基礎能力、対人能力、社会適応能力等に問題を抱え、雇用による就業が著しく困難な生活困窮者に対し、一般就労を行う前段階の準備として、基礎能力を形成することを目的に、計画的で一貫した支援を行った。

その結果、当事業を通じて本人の特性や症状を知ることができた。必要に応じて病院受診に同行し、障害手帳取得につなげることができた。当事業終了後は、一般就労だけでなく、障がい者枠の求人や障がい者福祉サービスの就労継続支援B型作業所の利用まで枠を広げることができ、本人にとって過剰な無理をすることない、行き場所を探すことができるようになった。

(ア) 相談対応

(単位:件)

	令和4年度	令和3年度
相談件数	7	_
のべ対応	428	_

(イ) 支援により見られた変化

(単位:件)

見られた変化	件数
就労開始	1
福祉サービスの利用	0
就職活動開始	2
健康状態の改善	3
障害者手帳取得	2
住まいの確保・安定	2
社会参加機会の増加	3
生活習慣の改善	2
対人関係・家族関係の改善	2
自立意欲の向上・改善	2
孤立の解消	3
精神の安定	3
計	25

(ウ) 就労体験の実施

受入先	延べ人数	延べ日数
NPO 法人おばら野(優・結)	2名	6 日
障がい者就労継続 B 型		
NPO 法人笑福	1名	3 日
共同ビルサービス株式会社	1名	3 日

(尾鷲総合病院 洗濯業務)		
計	4名	12 日

(エ) 作業訓練及び講習

ア 農作業訓練(通年)

内容:除草、土づくり、種まき、追肥、害虫対策、水やり、収穫な ど

イ 掃除訓練(通年)

内容:ボランティア室のモップ掛け、掃除機掛け、テーブル拭き掃除

ウパソコン訓練(通年)

内容:タイピング練習、Microsoft Word、Excel 基礎練習

エ 身だしなみ講習

開催日:8/24

内容:衣服コーディネート講習

オ 門松づくり

開催日:12/20

内容:新年を迎えるための門松づくり

カ ボランティア活動

開催日:1/12、1/31、2/7

内 容:紀望通り歩道および尾鷲市福祉保健センター敷地内の清掃

⑤ 被保護者就労支援事業(市受託事業)

生活保護受給者を対象に、就労に向けた相談を行い、ハローワーク・事業所見学への同行や就労体験を実施した。就労を目指すだけでなく、安定した生活を送るために障がい福祉サービスの利用が必要な場合は、障がい者手帳取得のため病院の受診同行を行った。その結果、本人および家族と信頼関係を構築することができ、本人の就労意欲を喚起することができた。

(ア) 相談対応

(単位:件)

	令和 4 年度	令和3年度
相談件数	2	2
のべ対応	53	31

(イ) 対応結果

(単位:件)

	令和4年度	令和3年度
常勤就労	0	0
パート就労	0	0
福祉的就労	0	0
計	0	0

ア 関係機関との会議

· 令和 4 年度稼働能力判定会議

開催日:毎月随時開催

出席:市福祉保健課・社協から5名が出席

・ 令和4年度被保護者就労支援打合せ会議

新型コロナ感染対策のため書面により実施

ハローワーク尾鷲、尾鷲市、尾鷲市社会福祉協議会

· 令和 4 年度紀北地域協議会就労部会

6/29 第1回会議(場所:尾鷲市中央公民館)

3/24 第2回会議(場所:オンライン会議)

(2) 生活資金貸付事業

① 生活福祉資金貸付事業(受託事業)

既存の生活福祉資金貸付事業に加えて、令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により生活資金に悩む世帯を対象とした特例貸付(新型コロナ特例貸付)を実施した。令和2年3月25日に開始された新型コロナ特例貸付は、令和4年9月30日をもって受付期間を終了したが、その後も必要に応じて借受世帯に対し相談援助を実施したほか、対象世帯については償還免除や償還猶予、償還金額の変更申請手続きを支援し経済的自立に繋げた。

(ア) 令和4年度新規貸付件数

(単位:件)

	資金種類	令和4年度	令和3年度
福祉資金	緊急小口資金	1	2
教育支援資金		1	0
新型コロナ	緊急小口資金	3	16
特例貸付	総合支援資金	2	12
	計	7	30

(イ) 令和4年度完済件数

(単位:件)

資金種類		令和4年度	令和3年度
福祉資金	緊急小口資金	2	1
教育支援資金		1	0
	計	3	1

(ウ) 令和4年度償還免除件数

(単位:件)

資金種類		令和4年度	令和3年度
新型コロナ	緊急小口資金	15	1
特例貸付	総合支援資金	9	1
計		24	2

(工) 令和年度末時点貸付件数

(単位:件)

資金種類		令和4年度	令和3年度
	福祉費(住宅)	1	1
福祉資金	障がい者自動車購入費	1	1
	技能習得費	1	1
	緊急小口資金	3	4
教育支援資金	教育支援資金		11
新型コロナ	緊急小口資金	39	51
特例貸付	総合支援資金	39	46
計		95	115

② 福祉金庫緊急貸付事業

緊急かつ一時的に生活資金が不足し、ライフラインの停止など困難な状況に陥った世帯に対して生活資金を貸し付けた。これにより生活機能の維持しつつ、併せて相談援助を行うことで生活再建に繋げた。

(ア) 令和4年度新規貸付件数・完済件数・償還免除件数

(単位:件)

種類	令和4年度	令和3年度
新規貸付件数	8	5
完済件数	7	7
償還免除件数	0	0

(イ) 令和4年度末時点貸付件数

(単位:件)

償還の状況	令和4年度	令和3年度
令和 4 年度末貸付件数	7	6
定期的に返済している方	0	0
不定期であるが、返済をしている方	1	2
令和4年度全く返済実績のない方	6	4

③ 借受人等関係者との関わり強化

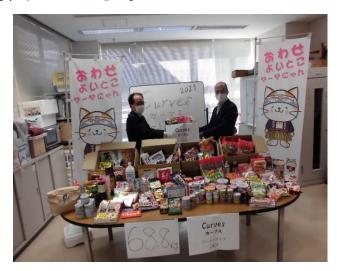
令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により訪問や面会が制限されたため、関係者と直接対面する機会が少なかった。代わりに電話による 状況把握・信頼関係の構築に努めた。

(3) 緊急食料等支給事業

- ① 緊急的に支援が必要な困窮者世帯に対する食料等支給食料寄付の受付
 - ・認定 NPO 法人セカンドハーベスト名古屋提供の食糧支援件数 15 件
 - ・当会独自事業および生活協同組合コープみえ、カーブスイオン尾鷲店 からの食料寄付を活用した支援件数 41 件
 - ・夏休みの子どもたちの食費負担軽減の為、ひとり親家庭と住民税非課税等 世帯に対し、食料等支援件数(フードパントリー)50 件 必要な世帯への一助とすることができた。対象世帯とつながることができ、 相談の入口としてつながりを作ることができた。

② 食料寄付の受付

- ・生活協同組合コープみえより、協定に基づき良品返品の商品(精米・食品など)の無償提供を受けた。
- ・カーブスイオンおわせ店が、会員 61 人の方から集めた未開封食料の食料寄付(68.8 キロ)を受け付けた。
- ・福祉保健センター1F ロビーに常設型フードドライブ(2022 年 8 月より)を設置し、社協職員や市民への食料品等の提供の呼びかけを行った。18 件常設型フードドライブが少しずつ知られるようになり、食料支援の一部として活用することができた。



3. 権利擁護事業

(1) 日常生活自立支援事業[おわせ日常生活自立支援センター](受託事業)

① 利用者支援の実施

関係者のための事業ではなく、利用者のための事業であることを念頭に、時間をかけて利用者の意思を確認し、その意思に応じて適切な情報提供・支援を行った。

(ア) 相談実績

(単位:件)

		認知症高齢者	知的 障がい者	精神 障がい者	その他	合計	令和3年度
木	目談	222	209	402	479	1312	921
	新規	1	2	1	2	6	2
契約	解約	3	0	1	0	4	3
1,15	継続	5	6	6	4	21	19

② 新規・困難ケースへの迅速な対応

新規相談ケースについては、関係者などに協力を求めて調査を可能な限り早期に行った。特に、虐待が疑われるなど緊急性の高いケースについては優先的に対応した。

困難ケースについては、チームによる支援を念頭に関係者と協議を重ね て慎重かつ迅速に対応した。

③ 関係機関との連携

地域包括支援センターや障がい者総合相談支援センターを始めとした関係機関と綿密に情報共有し、連携した対応を心掛けた。

④ 専門員・推進員・生活支援員の資質向上

スキルアップに必要な研修や会議に参加することで資質向上に努めた。

⑤ 契約締結審査会への出席(令和4年度1回出席)

利用者支援計画の変更や、成年後見制度を見越した事業の利用について 契約締結審査会に審査を依頼した。契約締結審査会では、専門員が委員に 対して審査内容を説明し見解や助言を求めた。その結果に基づき適切に支援を行った。

⑥ 日常生活自立支援事業の啓発

当事業の周知が十分でないため情報発信の方法を検討していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により多数に向けた情報発信をする機会が得られなかった。今後、研修会や集会等の行事の開催に合わせて広く周知を行う予定である。

(2) 後見支援事業

① 後見サポート事業

成年後見制度の利用に関する申立支援を1件行った。また、次の研修会に参加 し職員の資質向上に努めた。

- (ア) 三重県成年後見制度利用促進市町支援事業モデル市町取組報告会 令和5年2月15日 2名参加
- ② 尾鷲市成年後見制度利用促進協議会への参加(令和4年度6回参加)

権利擁護支援の地域連携ネットワークのコーディネートを担う中核的な機関(中核機関)設置に向けた協議に参加した。

② 法人による後見人等受任事業

新たに1件の後見人を受任し、令和4年度末現在受任件数は3件となった。また、後見事務として次の事務を行った。

- (ア) 審判に基づく被後見人等の支援(身上監護・財産管理)
- (イ) 法人後見運営委員会の開催(令和4年度2回開催)
- (ウ) 内部監査の実施(年1回)
- (エ) 裁判所への定期的な事務報告

Ⅲ 高齢者支援課

地域包括支援センター

1. 包括的支援事業

- (1) 総合相談支援
 - ① 総合相談窓口の設置

新規相談件数(集計は初回受付分のみ)

単位:件

相談内容	件	数
介護・日常生活に関する相談		559
介護サービスの利用に関する相談		151
医療サービスの利用に関する相談		31
生活費に関する相談		11
各種サービスの苦情に関する相談		5
権利擁護に関する相談		4
その他		15
승 計		776

(前年度新規相談件数:723件)

② 地域包括支援センターの周知

「社協だより(おわせ社協)」への掲載

「地域包括支援センターだより」の発行(年2回)

「社協ホームページ」の更新

③ 輪内ブランチ (輪内地区相談窓口)の開設 (週1回)

(2) 権利擁護支援

① 高齢者虐待防止

相談受理件数 1件(前年度3件)

- ② 権利擁護制度の活用支援
 - (ア) 日常生活自立支援事業の利用援助 相談件数 10件(前年度4件)
 - (イ) 成年後見制度の利用援助 相談件数 8件(前年度 12件)
 - ※ アセスメントの結果でニーズが判明することが多いため、上記新規相談 件数(初回受付分)とは一致しない。

③ 特殊詐欺等被害防止の呼びかけ 迷惑電話防止機能付き電話活用による特殊詐欺防止の呼びかけを行った。

(3) 包括的・継続的ケアマネジメント

① ケアマネジャー連絡会議の開催 ケアマネジャー同士の交流及び学びの機会を目的とした連絡会議を開催した。

	開催日	参加者	内 容
第1回	令和 4 年 6 月 16 日	13人	「指ヨガ、笑いヨガ、自宅でもできるストレス発散法」 講師 笑いヨガインストラクター 木許 祐美代 氏
第2回	令和 4 年 11 月 16 日	22 人	「高齢者のこころの病気について」 講師 三重県立こころの医療センター 精神科認定看護師 林 朋代 氏





(第1回研修会)

(第2回研修会)

② 包括的なケアマネジメント支援

ケアマネジャーのみでは対応困難な支援ケースについて相談に乗り、ケース全体のマネジメント支援を行った。

- ◆ 相談対応件数 92件(前年度92件)
- ③ 地域ケア会議の開催

支援困難ケースについて行政職員を交えた多職種による地域ケア会議を 開催し、問題の解決方針の模索と地域課題の抽出・検討を行った。

◆ 開催件数 4件(前年度10件)

(4) 介護予防ケアマネジメント

要支援認定者(介護予防・日常生活支援総合事業対象者を含む)に対して介護予防ケアマネジメントを実施し、要介護化の防止支援を行った。

◆ 月別の利用者数(ケアプラン作成数)

単位:件

	自機関作成分	委託分	合 計
4 月	150	60	210
5月	150	60	210
6月	160	57	217
7月	158	52	210
8月	156	51	207
9月	164	52	216
10 月	164	51	215
11 月	168	53	221
12月	173	52	225
1月	165	47	212
2月	175	53	228
3 月	179	55	234
平均	163	54	217
合 計	1, 962	643	2, 605

(前年度合計件数 2,443 件)

(5) 認知症総合支援

① 認知症初期集中支援のしくみづくり

認知症専門医を中心として医療・福祉の連携チームを編成し、医療や福祉サービスにつながっていないケースに対して集中的支援を行うしくみづくりを行った。

- ◆ 認知症に関する相談 73 件(前年度 74 件)
- ◆ 認知症初期集中支援チーム員による支援 9件(前年度 3件)
- ◆ 認知症初期集中支援チーム員会議 0回(前年度 8回)
- ◆ 認知症初期集中支援検討委員会 1回(前年度 1回)
- ② 認知症カフェ「こもれびカフェ」の運営

認知症に関する学びや相談、つながりづくりを目的とした認知症カフェ を開催した。

単位:人

口	開催日	会場	参加者
1	4月13日	県立熊野古道センター	3
2	5月12日	おわせ暮らしサポートセンター	11
3	6月8日	三木里野鳥の小径広場	11
4	7月13日	県立熊野古道センター	10

5	8月18日	おわせ暮らしサポートセンター	9		
6	9月7日	三木里コミュニティセンター	9		
7	10月12日	県立熊野古道センター	7		
8	11月10日	おわせ暮らしサポートセンター	5		
9	12月7日	三木里野鳥の小径広場	7		
10	1月11日	県立熊野古道センター	3		
11	2月9日	ぷらっつナカセン	8		
12	3月8日	三木里コミュニティセンター	18		
	合 計				

(前年度: 9回のべ67人)

③ 認知症サポーター養成講座

一般住民や企業・学校などを対象として認知症の周知・啓発を目的とした認知症サポーター養成講座を開催した。

単位:人

	開催日	対象者	参加者
1	5月11日	介護者の会「ささえ愛」参加者	6
2	7月15日	尾鷲中学校3年生	103
3	9月21日	一般(アルツハイマーデー来場者)	25
4	11月21日	宮之上小学校5年生	25
5	12月8日	輪内中学校全校生徒	24
6	1月13日	尾鷲高校選択科目「生活と福祉」	18
7	2月15日	コープみえ組合員	18
8	2月22日	コープみえ紀北センター職員	9
9	2月22日	コープみえ紀北センター職員	5
		合 計	233

(前年度:5回のべ110人)



(第2回尾鷲中学校)



(第6回尾鷲高校「生活と福祉」)

- ④ 認知症ボランティア(こもれびボランティア)の活動支援
 - (ア) こもれびボランティア登録数
 - ◆ 一般 5人
 - ◆ 専門職 6人(看護師 5人、薬剤師 1人)
 - (イ) こもれびボランティア活動内容
 - ◆ こもれびカフェの運営
 - ◆ アルツハイマーイベントの運営
- ⑤ 認知症啓発イベントの開催
 - (ア) おわせアルツハイマーデーの開催

世界アルツハイマー月間(9月)および世界アルツハイマーデー(9月21日)に合わせ、尾鷲市との共催で認知症の啓発を目的としたイベントを開催

◆ 開催日:令和4年9月21日

◆ 会 場:県立熊野古道センター

◆ 来場者:30人

◆ 内 容:認知症サポーター養成講座、認知症カフェ、スクエア ステップ、認知症の方の作品展示、認知症に関する相

談

(イ) 認知症介護に関する講演会の開催

◆ 開催日:令和4年5月8日

◆ 会 場:尾鷲市中央公民館3階講堂

◆ 来場者:100人

◆ 講 師:「老いと演劇」Oibokkeshi 主宰 菅原直樹 氏

⑥ 認知症高齢者の見守り支援

徘徊や行方不明になる恐れのある認知症高齢者の家族に対して、認知症 高齢者等 SOS ネットワークへの登録を促すとともに、行方不明者が発生し た場合は関係機関とともに捜索に協力した。

(6) 家族介護者支援事業

①介護者の会「ささえ愛」の開催

介護経験者を含む介護者同士の情報交換やリフレッシュを目的とした交流会を開催した。

単位:人

П	開催日	内容	参加者
1	5月11日	認知症に関する勉強会	6
2	6月23日	キーホルダーづくり	6

3	8月23日	介護技術に関する講習会	24		
4	11月8日	福祉用具に関する勉強会	2		
	合 計				

(前年度:6回のべ26人)





第2回の様子

第3回の様子

Ⅳ 障がい支援課

紀北地域障がい者総合相談支援センター結

1. 紀北圏域障がい者地域生活支援事業

(1)総合相談支援

住みなれた地域で安心した暮らしを継続し、障がいの有無にかかわらず、互いに人格や個性を尊重しあいながら共生する社会の実現という総合支援法の理念に基づいた相談支援を行った。また、地域での生活を継続するために、障害福祉サービスや地域支援事業などをライフステージに応じて利用できるよう支援を行った。

令和4年度の相談実人数は236人であった。支援内容は福祉サービスの利用に関する相談支援が多く、自分の希望する暮らしや意向を実現するために、どのようなサービスがあるのか知りたいという相談が多かった。

高齢化が進む中で、これからの生活について共に考え、これまで利用していなかったサービスについて知り、利用を検討する機会となった。

① 暮らしの相談

ここ数年で圏域内に障がい者グループホーム(障害者共同生活援助サービス)が開設された事で、住み慣れた地域を離れることなく生活を送れ、地元の日中活動にそのまま継続して参加する事が出来るようになった。将来を見据えてグループホームを定期的に体験利用する方もおり、貴重な地域資源となっている。一方で、本人、家族ともに高齢化が進んでいる中で緊急時の相談も増えてきているが、グループホームが定員に達し、必要な時に利用できない状況も出て来ている。今後も、グループホームへの支援を行い、地域での協力体制を強化していきたい。緊急時の相談があった場合は、地域のグループホームで対応してもらうことが多いが、緊急時の対応については地域課題として今後も検討が必要である。

② 家族関係·人間関係

高齢化が進む中で、障がい者を介護する親が高齢となり自宅での生活が難しくなったり、親を介護しているケースからの相談が増えており、地域包括支援セン

ターや居宅介護事業所と連携をしながら支援を行ってきた。他の家族の協力が得られない方も多く、高齢者サービスとのより一層の連携強化が求められる。

③ 家計経済の相談

金銭管理が上手くできず生活に支障が生じる相談ケースには、日常生活自立支援事業や生活相談事業と連携しながら支援を行った。独居の方や家族の協力が得られない方も増加しており、今後の権利擁護支援の体制も課題となる。

④ 就労相談

就労に関する相談は直接、就業・生活支援センターに繋がることが多くなっており、地域生活支援事業での相談は減っている。すぐに就労に結びつかないケースや生活面での課題を抱えているケース、就労系事業所からのステップアップを目指しているケースについては、市町委託の基幹型支援センターや相談支援事業所と就業・生活支援センターそれぞれの担当が共同して支援を行ってきた。

⑤ 社会参加·余暇活動相談

感染症の影響で自粛していた余暇活動について、少しずつ再開の兆しが出てきたことにより、休日の過ごし方やイベントへの参加についての相談が増えた。

◇障がい別 年間相談者実数(児・者)

(単位:人)

区分	実人員	身体	重症 心身	知的	精神	発達	高次脳 機能	その他
尾鷲市	125	22	2	59	37	4	0	3
紀北町	111	7	1	64	32	2	0	5
計	236	29	3	123	69	6	0	8

◇支援方法別 相談延べ件数

(単位:件)

57./\	=+-==	来所	□ ∴	電話	電子	関係	個別支	その	≞⊥
区分	訪問	相談	同行	相談	メール	機関	援会議	他	計
尾鷲市	1. 150	466	123	1. 436	5	455	66	87	3. 788
紀北町	1. 067	257	71	1. 160	0	341	83	37	3. 016
計	2. 217	723	194	2. 596	5	796	149	124	6. 804

◇支援内容(延べ件数)

(単位:件)

延べ件数	尾鷲市	紀北町
4. 005	2. 084	1. 921
414	275	139
502	261	241
418	228	190
78	51	27
236	133	103
205	123	82
88	52	36
144	90	54
394	298	96
13	11	2
307	182	125
6. 804	3. 788	3. 016
	4. 005 414 502 418 78 236 205 88 144 394 13 307	4. 005 2. 084 414 275 502 261 418 228 78 51 236 133 205 123 88 52 144 90 394 298 13 11 307 182

(2)権利擁護のための必要な援助

市町委託の基幹型支援センターのすべての職員が虐待防止に関する研修を受け、 虐待防止の窓口として、障がい者の個性や人格を尊重し、権利を擁護できるよう活動を行った。相談の際には、そのような行動に至った経緯の分析を行い、行政や医療機関、その他関係機関とも連携をとりながら、本人を取り巻く環境へのアプローチを行った。

(3)地域における相談支援体制強化と人材育成

相談支援専門員の研修受講者の地域実習・演習の受け入れを行い、地域の支援者の育成に努めた。新規のサービス利用の相談や相談支援専門員から相談を受けたケースに対しては、基幹型支援センターの職員が訪問や面談に同行し、相談支援専門員に対しての支援を行った。一方で、相談支援専門員が不足していることから、新規ケースを受けるまでに時間を頂くケースが出てきており、新たな相談支援専門員の育成が今後の地域課題と言える。

(4) 紀北地域協議会の運営支援

地域生活支援拠点部会、こころ部会、就労部会の3部会で構成し、それぞれ年

間テーマを決め活動を行った。また、これまで感染症拡大防止のため中止していた 避難訓練を再開した。

令和4年度 紀北地域協議会部会活動

部会名	取組内容
	テーマ:「紀北地域における地域生活支援拠点の整備に向けて」
地域生活支	緊急時の対応について、これまで相談のあったケースの対応方法
援拠点	を共有した。また、拠点整備に向けて課題となることについても
	意見を出し合い共有した。
	テーマ: 「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に
	向けて」
こころ部会	精神障がいを持っている方が安心して地域で暮らすために必要な
	支援の一つである精神科訪問看護の事業所から意見を寄せていた
	だき、地域の支援者としてできることを検討した。
	テーマ:「福祉的就労の場の確保、就労サポート・定着支援、多様
	な就労形態の創出について」
	〇令和4年4月より新しく事業所が開設し、圏域内の就労継続B
就労部会	型事業所は7事業となった。特に特別支援学校在校生にとって、
がり品名	卒業後の選択肢の幅が広がった。
	○支援施設の工賃アップ及び作業量の確保のために、三重県尾鷲
	農林水産事務所と連携し、水福連携や林福連携の取り組みについ
	て、事業者間で情報共有を図った。
	第1回:令和4年9月17日(土) 尾鷲市開催 参加者6名
	防災関連ゲーム、非常持ち出しバッグの確認
避難訓練	第2回:令和5年3月4日(土) 紀北町開催 参加者6名
	防災についての講話、避難タワーへの避難訓練、防災備蓄倉庫の
	見学

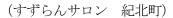
(5) ピアサポーター活動支援

地域での生活をより豊かなものとするために、社会との接点や色々な体験の機会を持てるよう「共通の経験と関心をもつ仲間同士の相互支援」を基本とするピア活動支援に取り組んだ。尾鷲市林町会館と紀北町海山公民館で、月2回行う「すずらんサロン(日中の居場所作り)」の活動を行った。前年度に引き続き、コロナウイルス感染予防のため、飲食を伴う活動は中止とし、趣味余暇活動の幅を広げる創作活動や感染対策をしながらの外出活動を行った。延べ人数で尾鷲市49人、紀北町2

0人、合計で69人の参加があった。これまでのような活動ができない中で、行ってみたい活動について意見を出したり、どうすれば自分たちが希望する活動ができるのか考える姿が見られるようになってきている。

また、尾鷲市身体障がい者互助会の活動支援については、令和4年度も外出行事・研修会は開催出来なかった。その為、会員宅を訪問し健康を確認すると共に、コロナ感染・防寒・防災対策品として、除菌シート、マスク、カイロ、防災グッズ等の配布を行った。







(すずらんサロン 尾鷲市)



(身体障がい者互助会)

2. 障害者就業・生活支援センター事業及び障がい者就業・生活支援事業

国の雇用安定等事業である就業・生活支援センター事業と三重県の障がい者就業・生活支援事業では、新型コロナウイルス第6波~第8波の影響を受け、前年度と比較して相談・支援件数は減少している。結果として、一般就労15人、職場実習22件の実績となり、定着率は78.6%となった。コロナ禍の環境の中でも企業訪問や電話対応を重ね、新規の職場実習から就職に繋がり、前年度から就職件数が増え、2ヶ所の職場を兼業されるケースもあった。また、少ない求人ではあるが在宅ワークに2名が繋がるなど、時代に沿った就労支援も行った。

労働局が定める事業については、オンラインを活用することで、当初の計画通り行うことができた。関係機関等の会議・研修について、前年度と比較して集合開催に戻りつつあり、議題以外の話題で参加者との交流も可能となり、関係機関同士のネットワーク作りの再構築にもなっている。

① 就労登録者数

(単位:人)

登録者数	新規	継続	合計
	13	193	206
内訳 身体障がい	2	33	35
知的障がい	3	87	90
精神障がい	7	65	72
その他	1	8	9

② 就労実績

(単位:人)

障がい種別					
1週間の	身体	知的	精神	その他(難病)	計
勤務時間数					
一般(30 時間以上)	2	2	3	0	7
20 時間以上 30 時間	0	9	1	0	3
未満	U	۷		U	3
20 時間未満	0	3	2	0	5
計	2	7	6	0	15

③ 市町別一般就労実績

(単位:人)

	区分			(内訳)		計
		身体	知的	精神	その他(難病)	āl
内	尾鷲市	1	5	3	0	9
訳	紀北町	1	2	3	0	6
圏域合計		2	7	6	0	15

④ 相談支援件数(内容別)

(単位:件)

内 容	身体	知的	精神	その他	計
就職に向けた相談支援	55	206	214	25	500
職場定着の為の相談支援	41	287	150	7	485
日常生活に関する相談支援	56	266	98	2	422
就業と生活に関する相談支援	6	14	7	1	28
計	158	773	469	35	1, 435

⑤相談支援件数(手段別)

(単位:件)

来所	255
オンライン・電話・電子メール等	687
職場訪問(定着支援、職場実習支援を含む)	183
家庭・利用施設への訪問	71
その他(ハローワークへの同行訪問、医療機関へ	239
の同行、年金事務所への同行等)	239
計	1, 435

◇在職者交流会・ピアサポート活動 研修会

開催日	内容	参加人
		数
	在職者交流会	
令和4年7月9日	「スマホの正しい使い方	7
	~SNS被害に遭わないために~」	
令和 4 年 11 月 12 日	ピアサポート活動	8
予州 4 年 1 月 2 日	「ビジネスマナー教室の開催」	0
令和5年3月4日	在職者交流会	8
74543月4日	「防災学習・避難訓練・防災タワー見学」	0







(単位:人)

◇地域の就労支援力の底上げのためのネットワーク形成・セミナー等の実施

開催日	内容
令和 4 年 7 月 25 日	紀北地域就労連絡会議
△和 / 左 10 日 10 □	雇用後のキャリアアップ
令和 4 年 10 月 19 日 	~誰もが働きやすい職場づくりのために~
令和5年1月17日	三重県ナカポツ連絡会議
△和5年9月17日	「安濃津ろまん」における障がい者雇用の取
令和 5 年 2 月 17 日 	り組みについて

3. 障がい者社会参加促進事業及び生活支援事業

(1) 生活訓練事業

視覚障がい者の方に対して、歩行訓練や福祉機器・点字の指導を行う。 開催 12 回 視覚障がい者 2 人 延べ参加人数 21 人

(2) フラワーアレンジメント教室

尾鷲市福祉保健センターで開催。講師 池田比早子氏 開催 12 回 延べ参加人数 130 人 (尾鷲市 107 人 紀北町 23 人)





(フラワーアレンジメント教室) (生活訓練事業 視覚障がい者歩行訓練)

(3) 点字・声の広報発行事業

視覚障がい者の方に対して、音訳ボランティアによる広報おわせ録音・発送。 実施12回 視覚障がい者3人 延べ配布人数36人

(4) 尾鷲市ふれあいスポレク祭

令和4年10月29日(土)開催

障がい者 50人 ボランティア 8団体 38人

福祉協力校 3 校 19 人 その他 10 人 合計 117 人

※感染対策として密を避けるため2部制で実施した。





(5)音楽教室

コロナ感染防止の為 開催中止

(合唱・楽器演奏・リズム遊びを行う活動である為)

(6) その他

紀北町ふれあいスポーツ大会、くろしお学園おわせ分校学習発表会・運動会、 紀北作業所夕涼み会は、形式変更や開催中止等で参加なし。

4. 指定特定相談支援事業·指定障害児相談支援事業·指定一般相談支援事業

障がい福祉サービス利用に必要な計画作成・モニタリングを行った。意思決定支援の視点を持ち、ご本人の思いを引き出し、サービス利用だけでなく、これからの生活についても一緒に考えながら支援を行う。未だ面会制限のある事業所もあるが、訪問し、直接お会いして支援する機会が増えてきている。事業所見学や体験を再開する事業所も増えてきており、スムーズにサービス利用につなげられるようになってきている。相談支援専門員の不足から、計画作成の依頼をすぐに受けることができないケースが出て来ているため、相談支援専門員の確保が今後の課題である。

① 特定相談支援 障害児相談支援

()	壮	件)
	11/	14

	利用計画	継続支援
尾鷲市	106	286
紀北町	84	218
圏域外	11	22
計	201	526

② 支援方法別 相談延べ件数

(単位:件)

区分	訪問	来所 相談	同行	電話等 相談	その他	計
尾鷲市	468	89	13	506	78	1, 154
紀北町	431	23	11	517	58	1, 040
計	899	112	24	1, 023	136	2, 194

V. 居宅介護支援課

居宅介護支援事業所

介護保険の指定居宅介護支援事業所として、居宅での介護サービスやその他の 福祉サービス、保健医療サービスが適切に利用できるよう、利用者自身の立場で その有する能力に応じて、自立した生活を送るための公正中立な支援を行った。

1. 職員体制

主任介護支援専門員4名 介護支援専門員1名

2. 業務内容

1. 利用者、家族の在宅生活、在宅介護の支援

利用者、家族の心身の状況やおかれている環境に応じてニーズを把握し、最善のケアプランの提案に努めた。

2. 居宅サービス計画の作成

在宅生活について利用者、ご家族の意向を尊重し、望む生活に近づけるようケア プランを作成した。

医療との連携について、退院時には、医師、病院関係者とのカンファレンスに参加 し、円滑に在宅生活に復帰できるように支援を行った。

新型コロナウイルス感染予防対策の為、感染状況により、院内の本人には面会することができなかったため、情報を基にサービス導入に努めた。

(1)新規利用者の確保

(単位:人)

	令和 4 年度	令和3年度
居宅新規	32	45
居宅終了	47	57
※内訳(死亡)	21	26
(入所)	21	20
(移動)	5	11
予防給付 新規	1	2

(2) 月別請求額

◇居宅介護支援費

(単位:人·円)

ĺ		4月	5月	6月	7月	8月	9月
	利用人数	161	160	162	159	154	148
	収入額	2,515,380	2,494,390	2,552,710	2,484,660	2,426,290	2,308,870

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
144	141	137	137	130	142	1,775
2,249,890	2,198,020	2,138,200	2,147,860	2,022,610	2,121,760	27,660,640

(前年度) 利用者人数 2,011 人 収入額 31,602 千円

◇介護予防支援費

(単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	4	4	3	4	3	4
収入額	17,520	17,520	13,140	17,520	13,140	17,520

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
2	2	2	2	2	4	36
8,760	8,760	8,760	8,760	8,760	23,020	163,180

(前年度) 利用者人数 54人 収入額242千円

◇介護予防ケアマネジメント費

(単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	5	4	4	3	3	3
収入額	21,900	17,520	17,520	13,140	13,140	13,140

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
	3	3	3	3	3	3	40
I	13,140	13,140	13,140	13,140	13,140	13,140	175,200

(前年度) 利用者人数 52 人 収入額 249 千円

3. サービス提供機関との連携

新型コロナウイルス感染予防対策のため、各サービス事業所への訪問ができず、電話 や書面にてサービス事業所と連携を図り、利用者の情報共有に努めた。

4. 介護支援専門員実務研修実習生受け入れ事業

令和4年度ケアマネ試験合格者1名を受け入れた。

5. 介護保険要介護認定調査

市外、県外保険者より委託を受け、認定調査の資格を持った職員が認定調査 を4件行った。

6. ケアプラン事業への参加(紀北広域連合主催)

新型コロナ感染予防対策により、令和4年度は年度末より再開となった。

7. ケアマネジメントの質の向上を図る

- 1. 居宅事務所内でのミーティングを実施 サービス提供にあたっての留意事項、 困難事例ケース検討会等、週1 回程度行った。
- 2. 居宅介護支援連絡会への参加 介護支援専門員としての意識向上、援助技術のスキルアップを図った。

Ⅵ 訪問介護事業課

訪問介護事業所

ホームヘルパーが自宅を訪問し、「いつまでも自宅で過ごしたい」との思いに応 えられるよう、日常生活上必要な支援を行った。

1. 訪問介護・総合事業訪問型サービス(介護保険)

介護等が必要な方を対象に、ホームヘルパーが自宅を訪問し、身体介護や生活 援助のサービスを提供した。要介護者の利用人数は減少したが、要支援者の利用 人数は増加した。全体(要支援者及び要介護者)での収入額は、ヘルパーの人材 不足・高齢化により、新規利用者の確保や身体介護サ─ビスへの対応が困難であ ったことや、要介護者の施設入所により減収となった。

(1) サービス内容

- 身体介護:食事介助、通院介助、入浴介助、排泄介助、体位変換 その他の身体介護
- 生活援助:調理、洗濯、買物、掃除、その他の家事援助
- 身体介護と生活援助の組み合わせ
- 通院等のための乗車または降車の介助

◇訪問介護月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	86	82	86	89	79	77
収入額	3,248,866	3,128,794	3,326,280	3,055,440	2,952,290	2,523,060

(単位:人・円)

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
74	73	71	68	66	68	919
2,687,620	2,851,650	2,664,260	2,404,250	2,270,900	2,654,950	33,768,360

(前年度) 利用者人数 1,165 人 収入額 43,937 千円

◇総合事業訪問型サービス月別実績

(単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	30	27	30	28	30	30
収入額	381,220	366,320	366,750	316,150	335,520	331,850

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
30	31	30	27	30	28	351
325,650	360,480	345,120	313,070	335,200	336,190	4,113,520

(前年度) 利用者人数 355 人 収入額 4,267 千円

2. 障害者総合支援事業

障害者総合支援法に基づき、居宅介護、重度訪問介護、移動支援の各障害福祉サービスを提供した。利用者が介護保険サービスを利用する65歳となっても、障害福祉サービス利用の併用があったことで、利用人数、収入ともに増加となった。

◇月別単位数 (実績月)

(単位:人·円)

	/	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利	刊用人数	33	37	34	33	31	31
J	収入額	1,544,707	1,765,601	1,659,276	1,675,026	1,425,574	1,428,572

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
34	33	29	28	30	33	386
1,512,690	1,683,025	1,231,486	1,356,440	1,425,110	1,617,020	18,324,527

(前年度) 利用者人数 397 人 収入額 16,466 千円

3. 生活支援サービス「あんしん」(保険外サービス)と一般乗用旅客自動車運送事業

生活支援サービス「あんしん」を介護保険外事業の一環として行った。また、ケアプランに連動した輸送と介護保険外の輸送を、一般乗用旅客自動車運送事業として実施した。

◇あんしん月別実績

(単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	15	16	17	13	13	13
収入額	50,600	39,700	41,700	36,700	52,000	35,400

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10	12	15	13	10	11	158
21,600	55,000	44,200	34,600	40,800	32,500	484,800

(前年度) 利用者人数 189人 収入額 562千円

◇運行利用料月別実績

(単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	73	73	70	82	65	67
収入額	185,950	180,030	164,950	181,500	180,100	161,650

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
68	66	65	55	55	60	799
174,200	184,750	165,200	108,450	118,750	131,850	1,937,380

(前年度) 利用者人数 975人 収入額 2,484 千円 要介護の利用者の減少により、通院等が減少したことで収入が減収となった。

4. 令和4年度の重点的な取り組み

(1)新型コロナウイルス感染症の拡大防止対応

感染症対策の3原則である「ウイルスを持ち込まない、広げない、持ち出さない」を基本に、職員の健康管理、サービス提供時の感染防止対策を徹底した。利用者や職員の感染に迅速に対応し、感染者を介して利用者・職員への感染拡大を防いだ。

(2)職員人材育成

- ①同行援護従事者講座 一般課程1名、応用課程1名 視覚障がい者の移動介助に従事するために必要な一般課程講習を受講し、 サービス提供責任者においては応用課程を受講することで、業務に従事でき る職員を増強し、新規利用者へのサービス提供を可能とした。
- ②介護職員に必要とされる知識、介護技術研修 全体研修および、各チーム別に介護従事者として必要な研修を行った。

(3) サービス提供責任者(チーフ)会議及び各チーム会議

サービス提供責任者会議では、各チームで抱えている個別困難ケースについて、管理者とサービス提供責任者が課題を検討し、情報共有と課題解決を行った。また共通する課題に対して方針決定を行い事業所運営に活かした。

各チーム会議では、各利用者の情報共有を行うとともに、介護職員に必要な研修を実施した。 _______

Ⅲ 訪問入浴事業課

訪問入浴事業所

1. 訪問入浴・介護予防訪問入浴(介護保険)

紀北地域唯一の訪問入浴事業所として、看護師、介護職員、運転手がチームとなり、利用者の身体状況に応じた安全で快適な入浴サービスを提供した。

紀北町の新規利用者が増加したことが増収に繋がった。

(1) サービス内容

- ① 看護師による健康チェック
- ② 衣服の着脱介助
- ③ 浴槽への安全な移動介助
- ④ 入浴介助
- ⑤ 在宅介護相談



(単位:人・円)

(2) 事業効果

- ① 寝たきり状態のため褥瘡が悪化していた利用者が、訪問入浴を利用することで褥瘡が改善した。
- ② 高台に住居があり、身体的負担からデイサービスの利用が困難な方に 自宅での安全な入浴サービスを提供することができた。

◇訪問入浴介護 月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	13	13	13	12	11	11
収入額	850,015	741,199	977,351	919,940	935,270	973,150

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
12	15	16	14	13	14	157
996,140	1,083,960	1,106,060	822,410	794,650	915,870	11,116,015

(前年度) 利用者人数 131人 収入額 10,432 千円

Ⅲ 尾鷲通所介護事業課

尾鷲社協デイサービスセンターいきいき

1. 地域密着型通所介護·総合事業

利用者が可能な限り、住み慣れた自宅でその人らしい自立生活を営むことが出来るよう利用者、家族の意向を尊重しながら楽しく通所することで、心身機能の維持・運動機能の向上を目的に提供した。半日ならではの特色を生かし、短時間で楽しめるデイサービスとしての役割を果たせるよう努力した。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、利用人数を減らしたことや、感染によるデイサービス休業が影響したため、収入が減少した。

(1) サービス内容

- ① 送迎サービス・バイタルチェック
- ② 脳トレ (パワーポイント使用し、トンチ問題や虫食い問題等全 100 種類以上)
- ③ 呼吸体操・集団体操・口腔体操・レクリエーション (呼吸体操・ストレッチ・タオル体操・ボール運動・セラバンド運動・有酸素運動・ 重心移動運動・脳トレ交えた手遊び等)
- ④ 身体の介助・支援(移動介助・見守りなど)
- ⑤ 日常生活の相談・助言
- ⑥ 入浴サービス
- ⑦ 足浴サービス
- ⑧ 個別運動器機能向上サービス(作業療法士による運動メニュー作成)
- ※⑥ ⑦ ⑧に関しては選択的サービス



(映像を使った体操の様子)

◇地域密着型通所介護 月別実績

(単位:人·円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	21	23		21	21	21
収入額	694,120	705,830	675,820	492,860	602,690	558,950

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
20	19	18	17	18	19	239
602,990	605,750	468,170	498,420	545,730	689,310	7,140,640

(前年度) 利用者人数 255 人 収入額 8,767 千円

◇総合事業 月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用人数	7	8	8	7	7	7
収入額	201,490	208,150	208,150	159,470	172,790	176,120

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
7	8	8	8	9	9	93
193,310	223,600	220,270	216,940	232,300	229,740	2,442,330

(前年度) 利用者人数 123人 収入額 3,607 千円

2. 一般介護予防事業(受託事業)

(1) 一般介護予防教室

尾鷲市から委託を受け、市内在住の 65 才以上の方を対象とした介護予防の為の教室で、脳トレやレクリエーション、運動等を指導・実践した。介護職員の不足により開催回数を週4回から2回にしたため減収となった。

(単位:回・円)

(単位:人・円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
開催数	8	8	8	6	7	9
収入額	200,000	200,000	200,000	150,000	175,000	225,000
1 0 [4 4 5	1]]]	A - I

L	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	8	8	7	8	7	8	92
	200,000	200,000	175,000	200,000	175,000	200,000	2,300,000

(前年度) 実施回数 117回 収入額 2,925 千円

3. その他

(1) 地域密着型運営推進会議

(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、年2回開催予定が中止となる。)

(2) いきいきクリスマス会の開催

(新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、プレゼント配布のみとした。)

(3)消火訓練・避難訓練の実施

デイサービス及び一般介護予教室の実施中に非常災害が発生したことを想定 し、避難訓練を実施した。他部署から職員が救援を行うなど、災害時においても 利用者の安全確保を出来るように検証した。

Ⅳ 輪内高齢者サービスセンター

輪内デイサービスセンター

1. 社会福祉協議会の分室機能

輪内地区の福祉事業の向上を図るため、次のような事業を行った。

- ①募金事業の窓口として事業を実施 5月 日赤募金 10月 共同募金
- ②社協相談窓口業務として地域住民の方から相談を受付け、市や介護保険関係事業所との連携を図った。

2. 輪内地区食の自立支援事業(受託事業)

尾鷲市から生活支援型配食サービスの委託を受け、食事を作ることが困難な 65 歳以上の高齢者の方を対象に、週3回(火、木、土)、食事内容の検討及び調理を行い各家庭へ配食を実施した。

対象地区	輪内地域
	(梶賀、曽根、賀田、古江、三木里、三木浦)
登録者数	26 名
延べ配食数	3,160 食
事業費	2,051,600 円
(うち市補助分)	(787,600円)

地区別登録者内訳

(梶賀2、曽根4、賀田9、古江5、三木里4、三木浦2)

3. 輪内地区あったか弁当事業(自主事業)

市の配食サービスの対象外となる 65 歳未満の方が同居している世帯の高齢者の方を対象に、自主事業として年間 294 食の配食サービスを実施し、食事を作ることが困難な方々の負担軽減を図った。

4. 地域密着型通所介護、介護予防・日常生活支援総合事業、障がい者通所介護

自立した日常生活を送ることを目標として、要支援、要介護、障がい者の方を対象に、日常生活上の世話や機能訓練、社会とのつながりを持つ意欲を高めるという目的を持ち、利用者の社会的孤立感を解消するとともに、介護をしているご家族の負担軽減を図るため、通所介護を実施した。



《サービス内容》

- ・入浴サービス(機械浴、一人浴、一般浴)
- ・送迎サービス
- ・生活指導(健康チェック、音楽鑑賞、レクリエーション、創作活動)
- ・食事の提供

(月別実績)

【地域密着型通所介護】

【地域密看型通所介護】							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数	25	26	25	32	27	29	
収入額	1,557,428	1,465,854	1,456,872	1,866,477	1,864,355	1,927,897	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
25	25	26	27	25	27	319	
1,840,427	1,729,986	2,017,048	1,760,729	1,752,377	1,878,059	21,117,509	
<u>【介護予防・E</u>	<u> 常生活支援</u>	総合事業】					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数	7	7	5	7	8	8	
収入額	212,967	212,967	159,390	229,932	248,238	248,238	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
8	8	7	5	5	5	80	
250,830	250,830	215,190	143,910	143,910	143,910	2,460,312	
【障がい通所							
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
実人数	2	2	2	2	2	2	
収入額	43,400	57,880	57,880	72,340	57,880	57,880	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
2	2	2	2	2	2	24	
73,100	58,480	58,480	58,480	58,480	58,480	712,760	

(前年度)	利用件数	収入額
地域密着型通所介護	324名	20,860千円
介護予防通所介護	45 名	1, 399 千円
障がい者通所介護	12 名	347 千円

5. 一般介護予防事業(受託事業)

尾鷲市から通所型一般介護予防事業の委託を受け、市内在住の65歳以上の高齢者の方を対象に、運動機能の改善や閉じこもり、認知症等の予防事業を週3回、年間189回実施し、高齢者が支援を必要とするような心身状態に陥らないよう介護予防に取り組むことができた。

(月別請求額)

【一般介護予防事業】

	73/2/1 03/2 3	100 1 21 2					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
開作	崔数	16	17	15	17	14	16
収	入額	400,000	425,000	375,000	425,000	350,000	400,000

10月	11月	12月	1月	2月	3月	슴計
16	18	15	11	15	19	189
400,000	450,000	375,000	275,000	375,000	475,000	4,725,000

(前年度) 開催数 116 回 収入額 2,900 千円